

通学合宿、「キャンプみたい」と大盛り上がり

第二小学校 (河野祐史校長) の児童が6月9日から12日まで、3泊4日の通学合宿をしました。合宿場所は学校向かいの第二地区コミュニティセンター。4年生から6年生まで13人が3日間一緒に寝泊まりする共同生活はみんな初めて。



食べるごはんはおいしきも格別。ふれあいサポートクラブのボランティア、学校支援ボランティアの皆さんが自由学習の先生役、食事作りなどを担当しました。学社連携推進協議会の事業として初めての取り組み。9月には2回目を予定しています。

事故絶滅誓った交通安全町民大会

5月27日、東川町交通安全協会(藤田裕三会長)は農村環境改善センターで交通安全町民大会を開き、交通事故ゼロを誓いました。町内各行政区の役員、高齢者団体、交通安全指導員ら約250人が出席しました。



は、今年になって死亡事故はないが224件の人身事故で300人が負傷している。特に交差点事故に気を付けてほしい」と呼びかけました。東川小6年、佐々木望風(みな)さん、東川中3年、杉山七星さんの2人が作文を朗読、12行政区長の宮崎堅三会長が町内の無事故を願って交通安全を誓いました。

くらし楽しくフェス、好天で人出好調

5月25、26日の2日間、キトウシ森林公園で第54回くらし楽しくフェスティバルが開かれました。2日間とも好天に恵まれ、会場いっぱい家族連れが子供服や玩具、大工道具などのリサイクルの掘り出し物探しを楽しみました。春の会場は、恒例の野菜の苗、山菜直売コーナーが大人気。トマト、ピーマン、唐辛子、なんばん、なす、キャ



ベツ、きゅうりなど10品種18種類の野菜の苗は、トマト、ミニトマトが一番人気の売れ行き。わらび、フキ、ギョウジャニンニク、ヤチブキなど朝採りの山菜も飛ぶような売れ行きでした。今年は東川中学校吹奏楽部の生徒39人が2日目に出演。素晴らしいストリートパフォーマンスに来場客の大きな囲みから拍手喝さい。今やお馴染みになった新能集団、乱拍子(札幌)も

あべ弘士さんも来町、移動朗読会始まる

町教育委員会主催の「親と子の移動朗読会」が6月から始まりました。16日、農村環境改善センター会場の朗読会では、旭川在住の絵本作家、あべ弘士さんの「ねこのいしやさん」「ふたごのしろくま」「ライオンのながいいちにち」「かわうそ3きょうだい」そらをゆく」「3びきのくま」5作品を朗読。あべさんも出席して、登場している動物たちになつわるお話を披露しました。



どを交え、動物たちの生態などを披露。「ホッキョクグマはアザラシ狩りします。その方法は、息継ぎに出てくる穴の上でじつと待ちぶせしていること。でも成功率は20回に1回しかない」「ホッキョクグマのお母さんは400キロぐらいの体重があるけれど、子どもは400グラムしかありません」などとみんなが知らない動物たちの世界を話しました。朗読会は初回、町内の写真家、竹田津実さんも出演。今後毎月1回程度ずつ定期的に開きます。

JA農協青年部、新たな仲間を激励会

6月11日、東川町農協大ホールで、同農協青年部(藤原俊太郎部長)が主催して新規就農者激励会を開きました。今年はUターンに加え、農業大学卒業後に新規就農する後継者も。近年では、3年前の9人に次いで多い7人もの頼もしい農業者が誕生しました。



一樹さん(25)、1区同渡邊慶昌さん(23)、42区同梶畑宏弥さん(20)。梶畑さんは、3年ぶりの新規卒の農業後継者として期待がかかっています。板谷重徳東川町農協組合長は「仲間とともに収穫の喜びを分かち合うことが出来る農業を目指してほしい」と激励。松岡市郎町長も「農業の素晴らしい可能性を切り開いてほしい」と金のスコップを一人ひとりに贈りました。

札幌の中学生がまち撮り初体験

5月30日、札幌市立陵北中学校(佐々木昭男校長、611人)の2年生185人が町内で写真甲子園並みのまち撮り撮影初体験をしました。体験学習のテーマに、本町で開いている「写真甲子園」が挙がり、初めての取り組みに選びました。バス5台に分乗して到着。役場や道の駅・ひがしかわ草館周辺、キトウ

シ森林公園、東神楽森林公園の3カ所を撮影ステージに、7人1グループに分かれて力作に挑戦しました。優勝チームには1人10ポイント、準優勝5チームには同5ポイントの東川米を町からプレゼントと聞いて、生徒たちは「おぉっ」と一気に気合いが入りました。携帯デジカメ、コンパクトデジタルカメラなど、持参のカメラでまち



並みを切り取りました。作品は後日プリント提出をしてもらい、町で審査の予定です。